

群馬県 御中

開催レポート

2024/03/09 (土) 実施

ぐんまこどもみらいカフェ

PoliPoli Gov

2024年03月09日



目次

01.開催概要	P.3
02.ディスカッションの内容	P.4
03.グループごとの振り返り	P.5
a. 小学5年生グループ	P.6
b. 小学6年生グループ	P.8
c. 中学生グループ	P.10
d. 高校生グループ	P.12
e. 大学生グループ	P.14
04.全体振り返り	P.16



開催概要

令和5年4月に施行された「こども基本法」において、自治体のこども施策を実施するにあたり、施策当事者であるこどもや養育者の意見を反映させるための措置を講ずることが義務化されました。

群馬県では、こども・若者の皆さんが考える「こども・若者にとっての理想の生活とそれを実現するために必要なこと」について、2023年9月～11月にプラットフォームPoliPoliGovを活用して意見募集を実施し、303件の意見が集まりました。

「ぐんまこどもみらいカフェ」では、こども・若者の皆さんが実際にどう思っているかをファシリテーターとの対話を通じて深めていき、群馬県のこども施策のあるべき姿を考えました。当日いただいた意見は、群馬県が2025年3月に策定する「こども計画」の参考にします。

- **開催日時**：2024年3月9日（土）10:00-12:00（9:30 受付開始）
- **参加者募集方法**：県HP（<https://www.pref.gunma.jp/page/624854.html>）を用いた募集
- **参加者**：応募者15名、出席14名（体調不良により1名欠席）

- **出席者内訳**

- 小学5年生：2名
- 小学6年生：3名
- 中学生：2名
- 高校生：3名
- 大学生：4名

- **ファシリテーター**

- 川瀬 信一さん 一般社団法人子どもの声からはじめよう代表理事／こども家庭庁参与
- 塩成 透さん 認定NPO法人Learning for All職員／こども家庭庁 こども若者★いけんぷらす登録ファシリテーター、ぽんぱーサポーター
- 豊島 美和さん 子どもアドボカシーセンター☆ぐんま☆代表理事／一般社団法人子どもの声からはじめようアドボケイト
- 中島 巳歌さん 産業保健師／認定NPO法人PIECESプログラム運営
- 藤本 雅衣子さん 認定NPO法人カタリバ みんなのルールメイキング事務局職員／一般社団法人子どもの声からはじめようアドボケイト

▼チラシ画像



実施コンテンツの詳細と結果

● 当日タイムスケジュール

- 10:00～10:10 開会あいさつ・自己紹介
- 10:10～10:15 グループごとにメンバー同士の自己紹介
- 10:15～11:30 仲良くなるためのゲームタイム、グループワーク（アイスブレイク、ディスカッション）
- 11:30～11:35 共有スペースへの移動
- 11:35～11:45 話し合ったことの共有
- 11:45～11:50 グループ内で感想共有
- 11:50～11:55 おわりに

● アイスブレイク：「Yes, and ...」ゲーム

- 相手の意見を肯定した上で、自分の提案をプラスし相手に返す「イエスアンド」のコミュニケーション手法を使ったゲーム
- 年代別5グループに分かれゲームを行い、それぞれのストーリーを作り、発表した
- どのグループでも、基本的には自分のターンで止まることなく、メンバーが積極的に参加し、その後のディスカッション参加への空気感を醸成できていた

● ディスカッション：「GROW」モデルを用いたワークショップ

- 本来的には、テーマを下記4つの視点から考え、相談者に行動を促すコーチングのモデル
 - G（Goal/理想の状態）、R（Reality/現状）、O（Option/選択肢・アイデア）、W（Will/意思）
- 年代ごとにどこまでできるかは予測が付かなかったが、小学生までは「O」までできると良いという期待値でディスカッションを進めた
- どのグループでも、特に「現状」については解像度が高く、多くの意見が集まった。
- アイデアでは、こどもらしく柔軟な意見が多く集まった。

グループごとの振り返り

小学5年生グループ

成果物



議論・発表の様子



子どもたちから出た意見

- 理想
 - 先生がもっと生徒によりそってくれるといいな
 - だれか大人が近くに来て助けてくれる
 - 環境
 - 道がきれいになるといいな
 - 犯罪が減るといいな
 - 仕事につきやすくなりたい
 - 海欲し～
- 現状
 - 勉強
 - あまり先生が話してくれない
 - 先生がわからないまま教えている
 - 歴史の勉強が、年号丸暗記だともったいない
 - 環境
 - 虫に触れられない子が多い
 - 自然豊かな群馬の良さがいかせていない(観光とか)
- アイデア
 - 先生の数を増やす、先生の教育をより良くする
 - 教科書アプリにしてタブレットを効果的に使う
 - 自然とふれあえる授業を多くする
 - 給食に昆虫食をまぜる

参加者からのコメント

- みんなで意見を交換し合えて楽しかったし、他の人の意見を聞いてこんな意見もあるんだと思える会だった。
- いろいろな人と関わって楽しかった。

ファシリテーターからのコメント

- 子どもたちがお互いの意見をきちんと聞いていて、対話から共感が生まれていた。
- 会場の雰囲気良かった。見晴らしがよいことが、アイデアをだす際の着想の広がりにつながった。(観光資源である山に高速道路を通したらいいのではないかな、など景色をながめながら意見をだすことも)
- 全体共有の時間はもう少し多くとってもよかった。小学生が発表に要する時間と大学生が発表に要する時間に違いがあった。

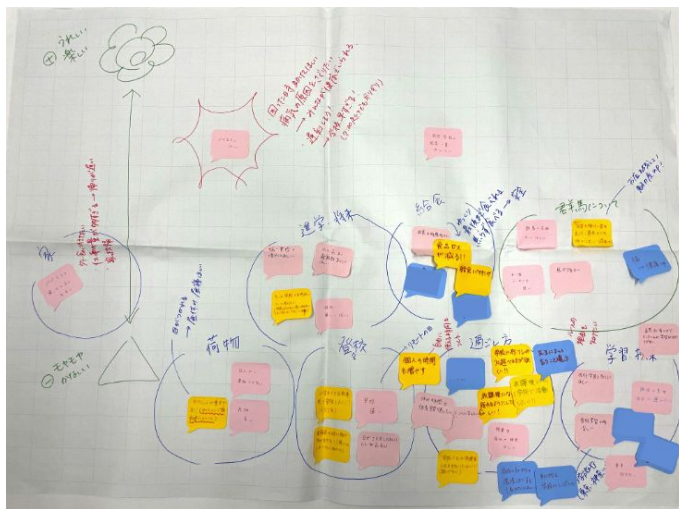
小学5年生グループ

成果物拡大図



小学6年生グループ

成果物



議論・発表の様子



こどもたちから出た意見

- 給食の時間が短いことで食品ロスに繋がったり事故につながったりしている、給食の時間を長くしてほしい
- 荷物が重い、ランドセルが重い
 - タブレットに教科書入っているのに学校に教科書持つて行くのはなぜなのか
- 放課後にもっと学校で活動したい
- タブレットで目が疲れる
- 授業の合間に昼寝が欲しい
- 学校に2-30分かかる
 - 小学校だけは歩きに限定される。バスや自転車通学があると良い
 - 小学生でも自転車に乗って登校したい！（バスでも）
 - 日傘OKIしてほしい
- パパとママ帰ってくるの遅い
- 校則が厳しい
- もっと学校で将来について考えたい
- 担任の先生を自分で選びたい
- 校外学習を多くしてほしい

参加者からのコメント(抜粋)

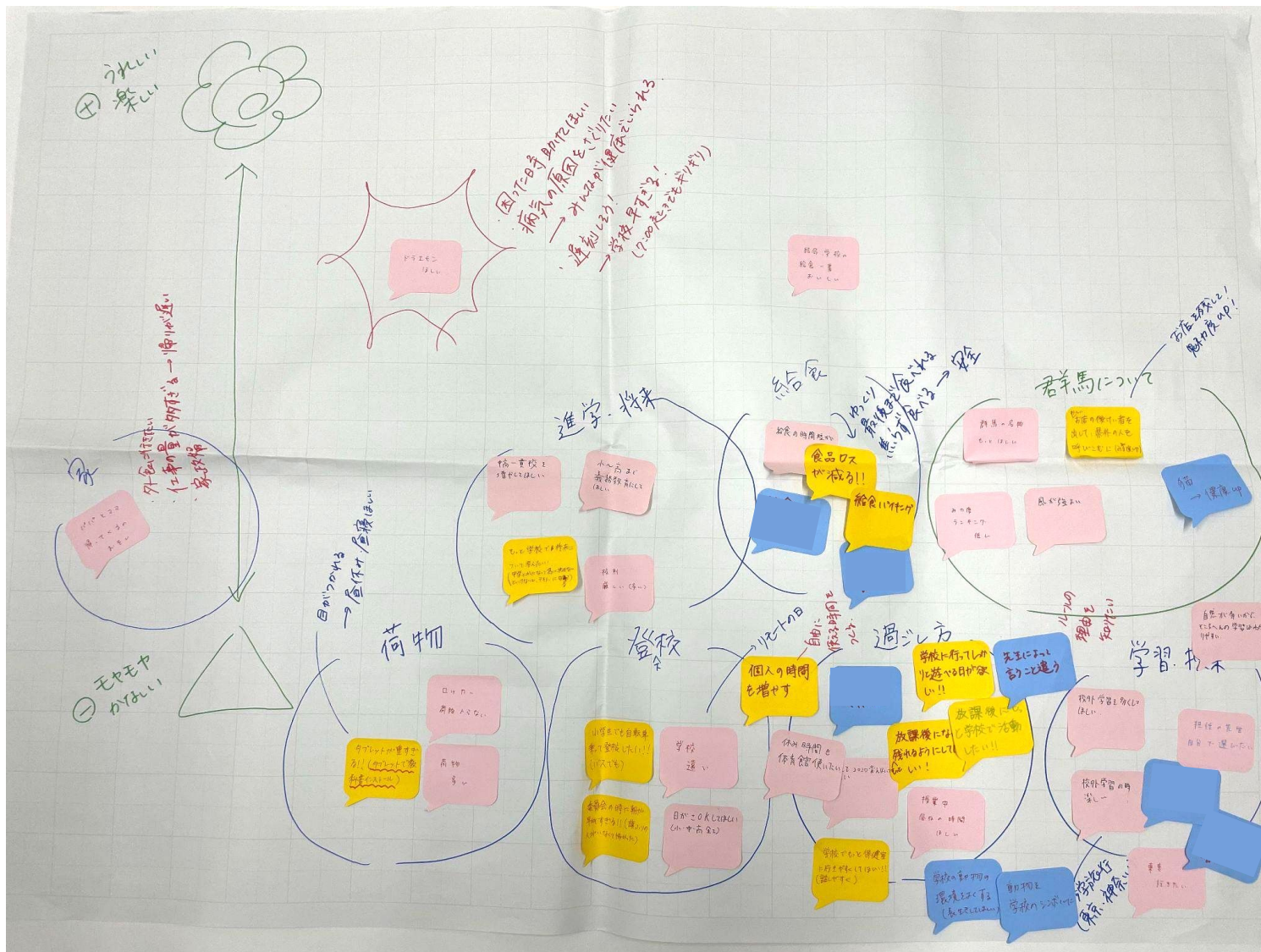
- 学年ごとに話し合っていたことが違って、「なるほど」と思い、学んだことが多かった。
- 群馬のこれからについて、色々な人の意見を聞いて、考えが広がった。
- 良かったところ
 - 同じ年くらいのグループ分けがされていた。
- いまいちだったところ
 - 学校ではやったことがない内容だったからびっくりして慣れるまでに時間がかかってしまった。

ファシリテーターからのコメント

- 学校に関するテーマが子ども同士も共感しあって話せたため、盛り上がりました。
- 場の空気や雰囲気は重要なので、会場が柔らかい雰囲気、日の光がはいる明るい場所だったので、運営する上で助けられた。

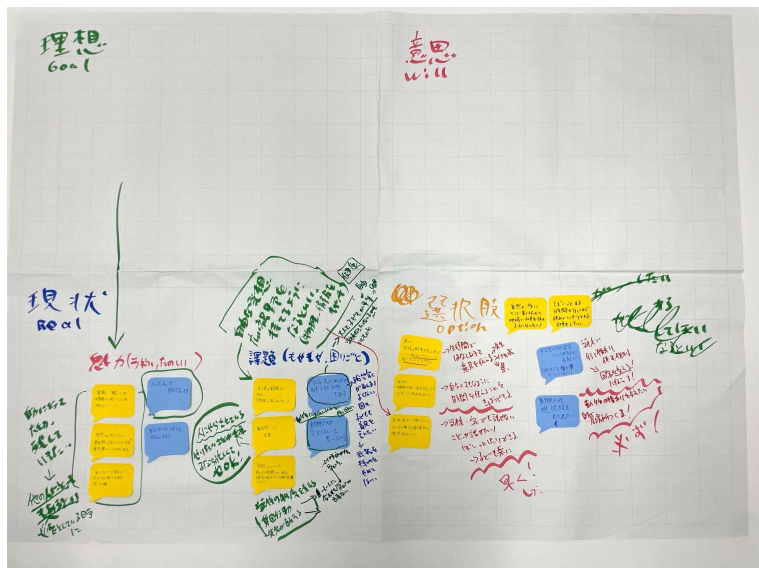
小学6年生グループ

成果物拡大図



中学生グループ

成果物



議論・発表の様子



子どもたちから出た意見

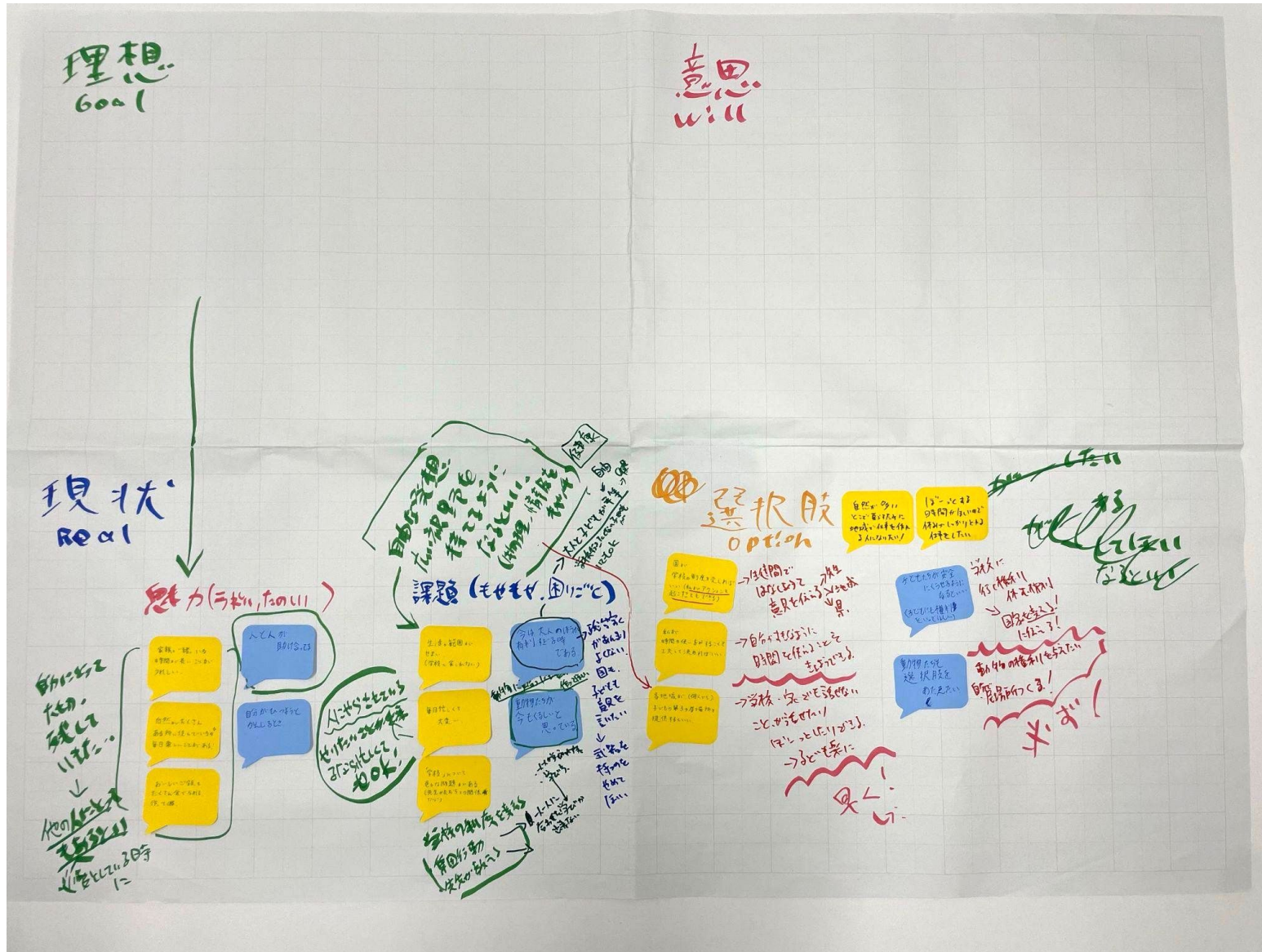
- 現状
 - 嬉しい楽しい
 - 家族と一緒にいる時間が長いこと
 - 自然があるところに住んでいる
 - 人と人が助け合っていること
 - 自分が必要と感じるとき
 - 課題
 - 生活範囲が狭い(学校と家しかない)
 - 権利
 - 今は大人の方が有利すぎる時
 - 動物たちが今もくるしいと思っている
- 理想
 - 学校、家でも話せないことが話せたり、ぼ一つとできる第三の居場所を各地域が提供する
 - 自分が好きなように時間を使える
 - 動物たちにも選択肢(権利)を与えたい
 - こどもの権利を守る国にしたい
- 理想の実現に向けて
 - 放課後に行けるこどもの第三の居場所をつくりたい
 - 学校での子どもごとに合わせた学び(内容と進め方)
 - 自然が多いところで暮らすために、地域で仕事を作れる人になりたい
 - 学校の制度について、生徒間で話して意見を伝えるなど、自分たちでアクションする

ファシリテーターからのコメント

- 運営にあたり、群馬県の方が臨機応変にファシリテーターの提案を受け入れていただけただけのため、スムーズに実施することができた

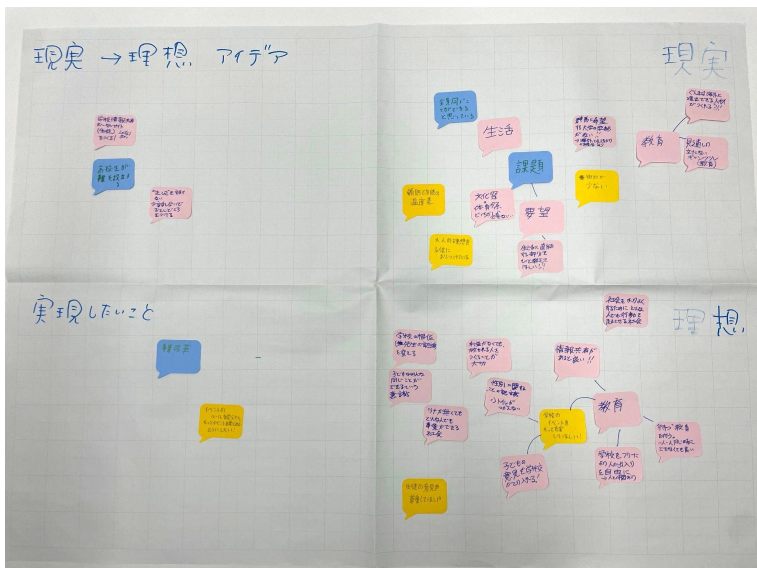
中学生グループ

成果物拡大図



高校生グループ

成果物



議論・発表の様子



子どもたちから出た意見

- 教育の現状
 - 求めている教育システムが不足している
 - 群馬県庁主導で海外に進出できる人材を育てるために様々な施策を行くための施策がある一方で、成果が出るまで時間がかかる施策の実施は難しい
- 理想
 - 子どもの意見を学校に取り入れる
 - 学校のイベントの充実
 - 「待つ」教育。一人ひとり同じ時にできなくてもよい
- アイデア
 - 学校の垣根を越えて情報を共有する
 - 県内の学生同士がつながるポータルサイトがあると良い
 - やりたい！と言える社会にしてい
 - 政治家に任せるだけでなく、一步一步進めていく
 - 今からでも生徒向けの事業をしたい、立ち上げたい
 - イベントを企画したい
 - 人と交流する機会を持って、できることを増やしたい
 - 起業チャレンジを学生チームを作って行ってみたい

参加者からのコメント(抜粋)

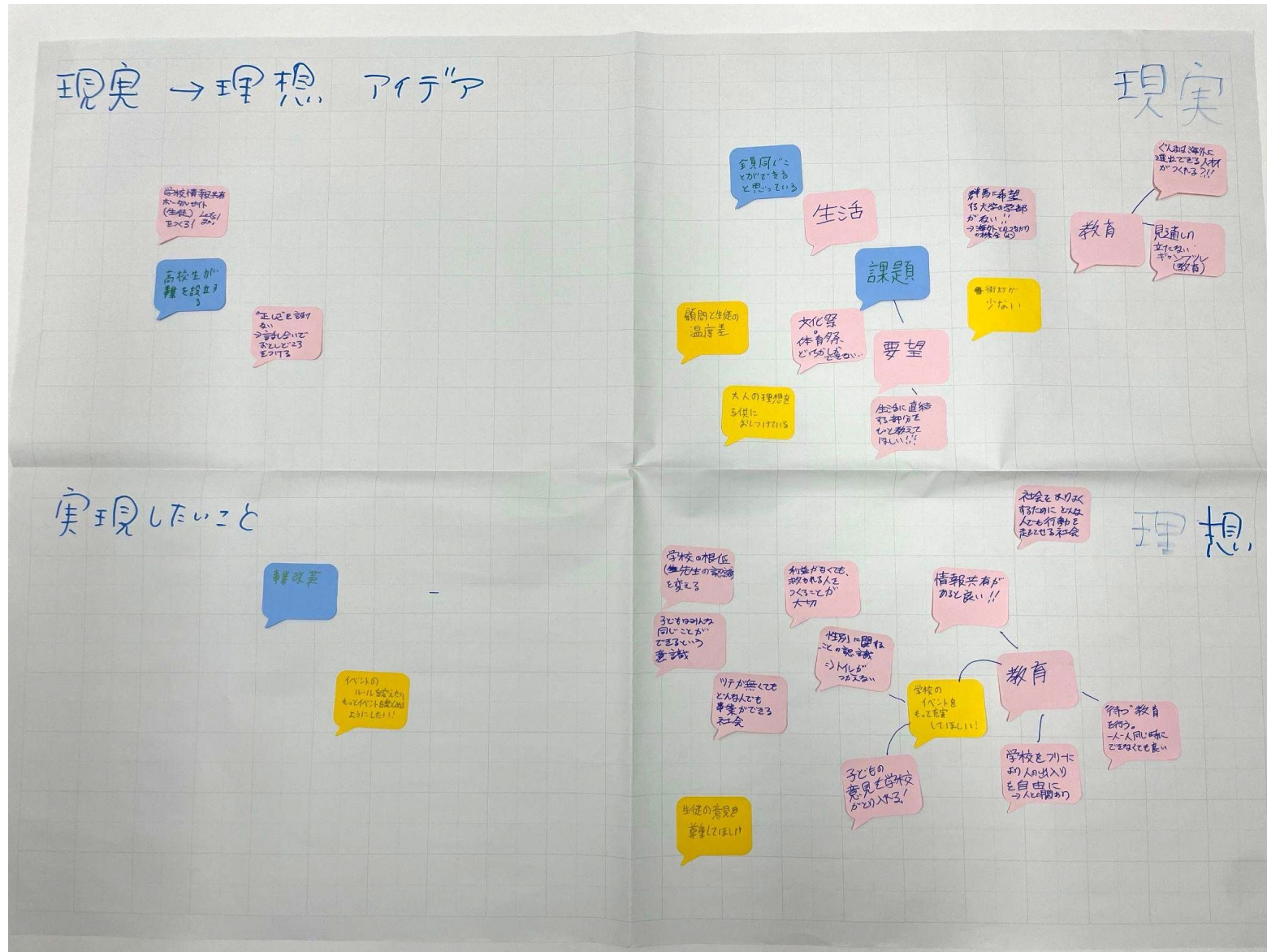
- ついつい楽しくなるあまり気分が舞い上がってしまって、発表前に意見をまとめる時間をあまりとれなかったことや、実現可能性や問題の背景をより深く鑑みた冷静な意見をを行うことに課題が残ってしまいました。しかし、イベント全体の満足度はかなり高く、こうした貴重なイベントに参加することができたこと、とてもうれしく思います。

ファシリテーターからのコメント(抜粋)

- 当日ゴール設定として、下記点でしたがa・b、ともに達成できたのではないかと感じています
 - a.参加した子どもが楽しかったと思える
 - b.子どもが自分の思いを言葉にすることができる

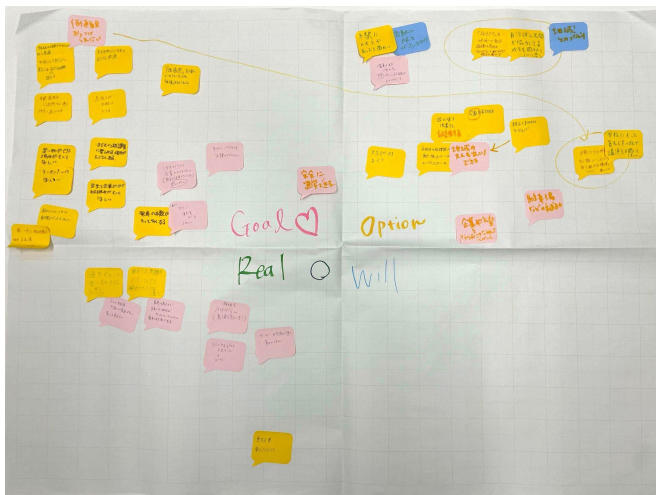
高校生グループ

成果物拡大図



大学生グループ

成果物



議論・発表の様子



子どもたちから出た意見

- 交通において待ち時間が多い、時間に制限される
 - 楽しめるコンテンツが町にあると良い
 - 伊勢崎での地域おこし協力隊のスタンプラリーアイデアの水平展開
- アイデア: 中高生の居場所(ユーススペース)を作り、ワークショップをするなど地域とのつながりを生む
- 価値観
 - 親や先生からの押し付け
 - アイデア: 学校にもっと著名人や、新しい価値観をもたらしてくれる人を連れてきてほしい
 - 自分の家と学校にしか居場所がないと、選択肢が狭まってしまう
 - 学校でも、「失敗してもよいんだよ」という雰囲気作りがあると良い
- 大学生向けの企業説明会
 - フラットな服装という指定なのにスーツを着ている現状
 - 気軽に話したりフランクに交流・相談ができるスタイルの就活イベントがあると良い
 - 企業やOB OG採用関係なしに話し合える場があると良い

参加者からのコメント(抜粋)

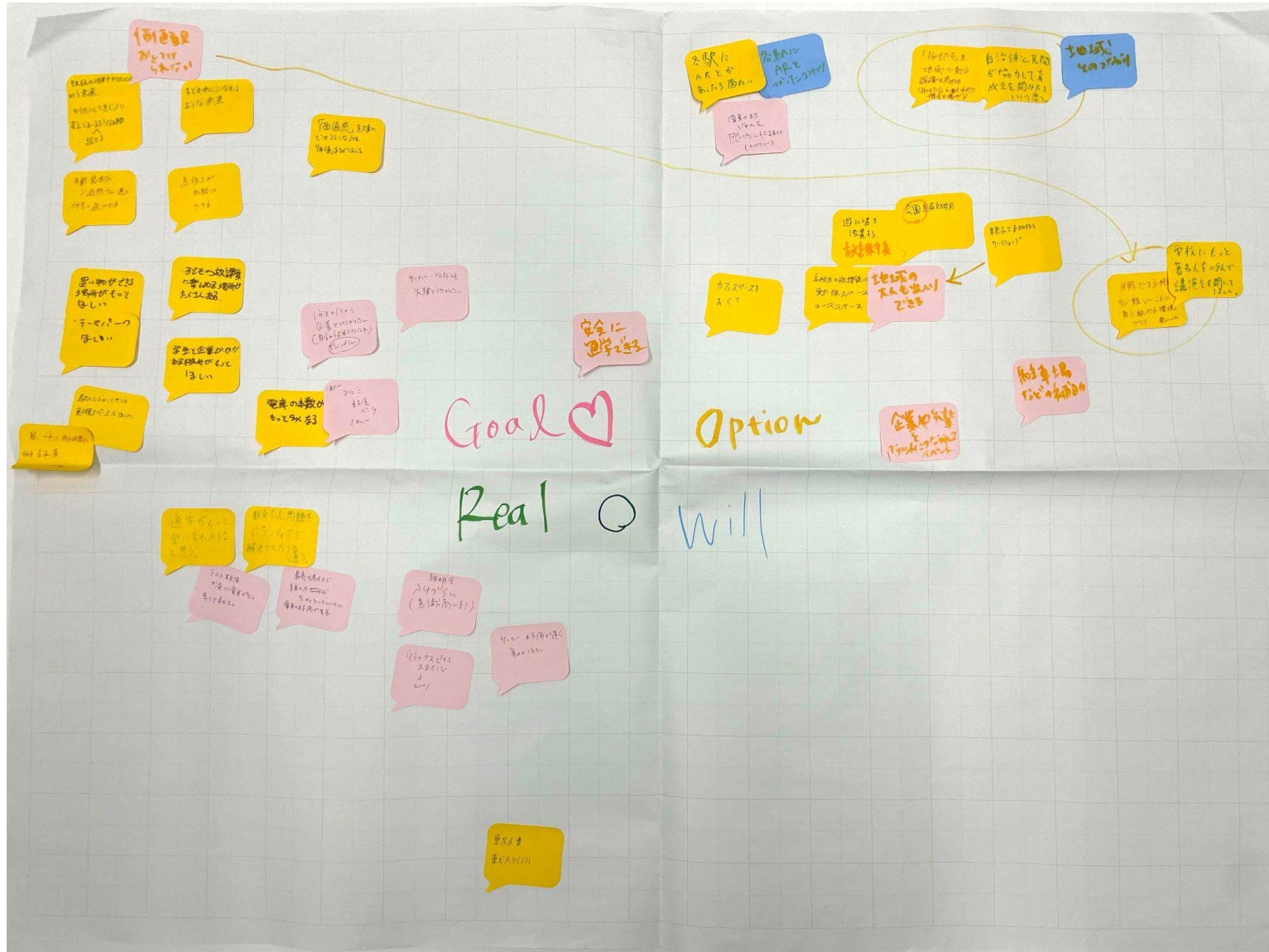
- 小学生、中学生、高校生と幅広い年代の人の意見を聞くことができ、実際に生の声を聞くことが出来て共感できる内容も多くかなり満足です！
- 様々な方とディスカッションをしながら今後の群馬について考えることができた
- 他の参加者の意見を聞いて、困っているのは自分だけではないのだと実感できた。また、県庁の職員の方々だけでなく、ファシリテーターの方々も協力してくださったので、スムーズに意見交換ができた。

ファシリテーターからのコメント

- 県の方から直接、子どもたちの生活について知らないことをたくさん聞けてよかったという声を聞かせていただいたのがよかった。

大学生グループ

成果物拡大図



全体振り返り

- **議論内容について**

- 小学生の議論の中心は身近な物事（生活環境・学校生活・給食・交通等）に対するものが多く、中学生になるとそれに加えて自身の興味（動物やこどもの権利等）が議論の中心となり、高校生以上になるとより客観的に社会の課題（教育システム・他者との連携・就活等）を捉えていた。
- どの年代においても、行政にて解決のための方策を検討すべき事項が浮き彫りとなった。今後のためにも抽出された課題については解決に向けての動きを検討されたい。

- **座談会実施について**

- **<参加者からの評価>**

- 参加者アンケートの結果、イベントの満足度は4.6（回答者10名）となり、満足度の高いイベントになった。
- 特に満足度の高かった点として、同年代の他の参加者との意見の交換や、他の年代の意見も聞くことができた点があがった。
- また、「自分の思っていることを伝えることができたか」という質問においては、全員が「ややできた」「できた」と回答しており、こどもたちが安心して参加することができる雰囲気、こどもとファシリテーターが協働してつくることができたと考えられる。

- **<運営について>**

- 運営側で会場の選定や使い方、ファシリテーター以外の行政職員とこどもたちとの距離感を明確にしておくことで、こどもたちが「自分のペースで参加ができる、安心安全な環境」を実現できた。今後、同様の機会を設ける場合にも、積極的な発言や発表を評価するだけでなく、自然に意見を出せる状態作り、緩やかな参加の容認など、こどものペースでの参加が保証されることが重要である。
- 多様な年代が参加する場合は、年代に応じて作業や発表などの時間配分を設定する必要がある。
- 同じ学校の人がいるかもしれないことが不安に繋がっていたという声があったことから、参加者の属性を事前に共有してはどうか。
- 今回のイベントでは、発表前に意見の訂正・取下げをする時間を設けた。さらに丁寧に実施するのであれば、加えて、当日言えなかったことを追加・補足する期間を設けることも検討されたい。

PoliPoli Gov